

# LAYANG LAYANG

## 5-6月の出来事

### 水不足の首都圏へ水を送るために…

パハン州から水不足のクアラルンプールやスランゴール州へ水を供給するため、45kmにわたるトンネルを含む導水事業を支援しています。来年初めにはマレーシア側の浄水場の第一段階の工事が終了し、毎日325万リットルの水が首都圏向けに供給されることになります。



トンネル出口(現在は仮の導水管を接続)



導水トンネルの出口をつなぐ工事

「パハン・スランゴール導水事業」 借款契約日:2005/3- マ側機関:エネルギー・環境技術・水省、水道供給局

### 京都市の「こどもエコチャレンジ」、ジョホールへ



子供たちが自分達でできる地球温暖化を防ぐための取り組みについての話し合い。「水を出しっぱなしにしない」「TVを見ないときはけす」などなど。

子供たちが身近なことから地球環境を守る活動をする京都市の「こどもエコライフチャレンジ」をマレーシアへも広げようという活動が、ジョホール州で始まりました。モデル校として地域の小学校を選び、生活を見直す自己採点などの活動を行っています。

「低炭素社会実現に向けた人・コミュニティづくりプロジェクト」 期間:2016/2-2018/12 マ側機関:マレーシア工科大学アジア低炭素社会研究センター

### 北九州市の協力でフレイザーズヒルのごみ減量と活用へ

増加するゴミに悩む観光地フレイザーズヒルで、北九州市と廃棄物管理公社、フレイザーヒルの自治体が協力してリサイクル品の分別回収や生ごみからコンポストを作るプロジェクトを行っています。今回は、北九州市から専門家が訪れ、現地で指導を行いました。



コンポストを使って野菜栽培テスト



北九州から導入したコンポスター

「フレイザーヒル廃棄物管理改善事業」 期間:2014/10-2016/9 マ側機関:廃棄物管理公社、フレイザーズヒル自治体

## ペナンの漏水対策の指導者が日本でさらなる技術強化へ



漏水探知  
実習

5月24日～6月2日、ペナン水道公社から5名の研修生が東京水道サービスの研修開発センター等で漏水予防と対策を学びました。ペナンではすでに指導者である研修員は、応用技術となる配水管の耐震化工事や原水連絡管の二重化工事、大口径の配管等の研修・見学を行いました。ペナンにはこの研修・開発センターをモデルとした研修実習フィールドを設置しましたが、今ではマレーシア国内での指導者育成研修ができるようになり、近隣国への研修指導も計画しています。



大口径配管  
実習見学

「マレーシアにおける無収水削減技術研修・能力向上プロジェクト」 期間：2014/1～2016/11 マ側機関：ペナン水道公社

## 高齢化社会プロジェクト本格始動



社会福祉局との協議  
(5月17日)



専門家チームが、5/16-5/18にかけて、社会福祉局本部と討議し、今年度の活動を計画しました。今後、8月に本邦研修、10月に全国セミナー、11月には第三国（タイ）での研修受講などを予定しています。

「マレーシア高齢化社会に向けた地域社会に根差したプログラム及び社会的支援の構築プロジェクト」 期間：2015/11～2017/10 マ側機関：社会福祉局

### その他のニュース

● 2016年度マレーシア南南協力計画案件リスト（6月13日）

[http://www.jica.go.jp/malaysia/office/information/event/ku57pq000021aiva-att/list\\_20160613.pdf](http://www.jica.go.jp/malaysia/office/information/event/ku57pq000021aiva-att/list_20160613.pdf)

● パームオイル工場の排水処理高度化に向けて（6月2日）

<http://www.jica.go.jp/malaysia/office/information/event/160602.html>

## マレーシアの進路指導

日本の学校には、高校や大学、専門学校にも進路指導担当者がいて、生徒の就職を支援しています。マレーシアには一般にこのような制度はなく、卒業後、自分で探して就職するのが普通です。その方法は、職業を紹介する会社などの利用や新聞、口コミなどが一般的です。

ここでの問題は、本人の希望と企業が望む人材の最適なマッチができていないか、ということです。特に専門学校や高等技術教育を受けた人と産業界の各々のニーズが合致しなければ折角の知識と技術が無駄になります。そこで、2007年からJICA技術プロジェクトおよびシニアボランティアの協力で、人的資源省下にある高等技術専門学校と技術短大すべてに就労支援と企業との連携を行う支援ユニットが開設され、就職のあっせんも始まりました。この取り組みは現在も続けられています。

もう一つ、学校による就職支援がないことによる大きな問題があります。それは、障害を持つ生徒の就職が難しいことです。マレーシアでは特別支援教育を受けることができる生徒は限られており、比較的軽度の障害児のみが学校に受け入れられます。それにも拘らず学校が就職を支援していないので、自分では職を見つけられず、多くの場合卒業後の行き場がないのが現状です。学校には職業訓練はありますが、就職に結びついていません。就職するためには学校から一般社会に参加するための移行を支援する必要があります。JICAでは、障害者が就職するための準備である、就労移行支援やキャリア教育を学ぶべく、まずはマレーシアの特別支援教員や福祉に関わる人、労働局の人などに日本の取り組みを見てもらい、どのようにマレーシアで実現させていくかを考えるきっかけとしたいと考え、研修を計画中です。



(JICAマレーシア事務所 NGO-ジャパンデスク 四方照美)

参考写真

JICAマレーシア及びニュースレターのバックナンバーはこちら→ <http://www.jica.go.jp/malaysia/index.html>

JICAホームページはこちらから→ <http://www.jica.go.jp/>

配信(追加、停止等)に関するご希望、ご意見、ご要望など → [ms\\_oso\\_rep@jica.go.jp](mailto:ms_oso_rep@jica.go.jp)

### JICA Malaysia Office

Level 29, Menara Citibank, 165 Jalan Ampang 50450 Kuala Lumpur Malaysia  
Tel: 603-2166 8900 Fax:603-2166 5900  
E mail address : [ms\\_oso\\_rep@jica.go.jp](mailto:ms_oso_rep@jica.go.jp)

※本ニュースレターはJICAマレーシアの活動を日本の皆様、在外の皆様にご覧いただき、ご理解と更なる興味を持っていただくという趣旨で作成しております。